



Faculty of
Science and
Technology
Tokushima University

岩石の風化および地すべりに関する研究

〔岩石の風化, 地すべり, 斜面崩壊〕 准教授 西山賢一



2016年熊本地震で発生した地すべり(アースフロー)



新第三系熊野層群の泥岩に見られる風化帯構造

研究の意義: 岩石の風化は, 地表で進行するマスマーブメントなどの侵食現象に深く関わる現象であり, その特性に関する研究は, 応用地質学的にみて非常に重要な研究テーマである.

地すべり研究の動向: 地すべりの発生場所の予測は, 地形学および地質学の手法を用いて行われる. その予測に当たっては, 斜面に分布する岩盤の表層風化帯の形成過程や, 風化帯を構成する岩石の物理的・力学的な特徴を把握することが必要になる.

風化研究の動向: 風化作用は, 一般に褐色化で特徴づけることができる. この褐色化には, 岩石に含まれる鉄鉱物の酸化過程が関わっており, 酸化による水酸化鉄の形成と, 可溶性成分の溶解に伴う岩石内での間隙の増加が, 岩石の風化プロセスにおける主要な要因であることが明らかになってきた.

分野: 地質学

専門: 応用地質

E-mail: nishiyama@tokushima-u.ac.jp

Tel. 088-656-7239

Fax: 088-656-7239